『國民新報』1940年6月2日

[主張]　間違つた考[[1]](#footnote-1)

　一というふことに して、のの一には、つたを してゐるものがある。一は をへることだ。われわれが一となることによつて をるかといふのである。ひかへれば一をへるに[[2]](#footnote-2)ともはつたことがない ではないかといふのである。このは 一一あるやうであるが、そのには ながんでゐるのだ。

　はので、に にれかはらう、しもされもせぬ 一のにならうとの、しいをなし、その にうてのをめるといふ であつて、まださうなつたのではない。われわれ がのから、われはなり とじ、また、われは一のとしての をなしたりとするやうに なつたに、めて一はするのである。もし からにしてのが へられることがありとすれば[、]それはち そのにいてゞあるべきだ。るに 一運動のにいて、にの をにき[、]それがにへられないからといつて がましきことをへるやうでは[、]それはに あさましきりで[、]そののとして[の]がはれると いはねばならぬ。

　われわれはにから、のとにせしめられてゐることを、ありがたくこそふべきで、も 一してはをすきをつてはならない。

　をめてをつといふ。われわれが、にいて、にすべきことは、の、、とそしてとである。しくくあるをして にげやう といふ一もあつてはならない。われわれは、このりののととでは まだのにつ一のではない。、相な月日をしてきし きげてこそめて のたるにはしきになるのだ といふことをにしなければならない[。]やつとだ[、]まではまだまだだといふ をめてはならない。

　氏にしてもさうである。のでは われわれのために をきのをせしめやうとしての であるから、んでんで、このけにずべきであつて、かうしたら にどんながあるだらう、などと さもしいをしてはならない。のになるとして、またはとして、しくにりすとして、一日もくなすべきである。日な、ひきずられてかうといふやうなは、にすべきなといはねばならない。

　をへることはでもなければ でもない。もてわれわれのなすべきことを なせばいゝのである。してわれわれやのを におせげやうではないか。

1. この文章は一部「わかちがき」がなされている。 [↑](#footnote-ref-1)
2. 単行本『同胞に寄す』では「一をへる**と**と」に変わっているが、これだと意味が通らない。おそらく校正者が変更したのだろう。 [↑](#footnote-ref-2)